

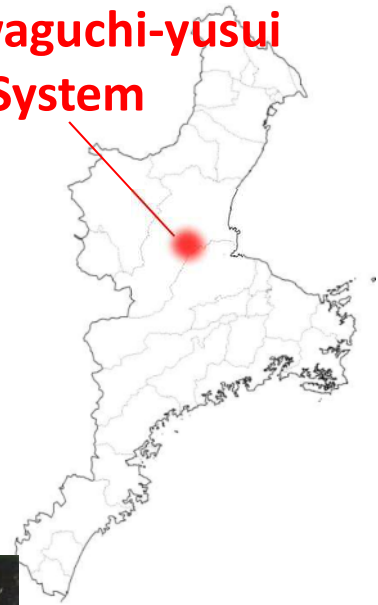
世界かんがい施設遺産

みなみいえき
南家城
かわぐちゆすい
川口井水
[三重県・津市]

- 南家城川口井水の始まりは古く、平安時代の1190年に開設され、その後1729年に南家城井と川口井の二つの井水が連合。水路は、異なる領主をもつその時代の小国をまたぐため、水路の取扱いについては、細かいルールが規定。この水利慣行は数百年間受け継がれ、現在に至るまで遵守。
- 自然の地形を巧みに利用し、岩盤を鑿（たがね）で削った水路や必要に応じ岩盤に柱穴（はしらあな）を開け、その穴に丸太（まるた）を差し込み、それを芯とし石灰を混ぜた赤土で水路の側壁を造っており、自然の地形に応じ苦心し工夫した跡が顕在。
- 1箇所頭の首工のほか約8kmの幹線用水路や分木工等の施設により、地域の約360haの耕地へ農業用水を供給。

**Minamiieki-kawaguchi-yusui
Irrigation System**

施設そのものが地域の文化的な遺産であるという意識のもと守られてきた水路



幹線用水路



集落内を流れる水路



先人の道具



享保の川口井約定書



岩盤を鑿で削って作った水路跡



柱穴跡